エコール事務機チェーン
創立30周年を祝う

エコール事務機チェーン（中島良彰会長）の「創立60周年記念のつどい」が、7月4日午後5時30分から東京港区虎ノ門のオークラ東京で、会員、賛助会員など183人が出席して盛大に開催された。

式典のオープニングセレモニーでは、奇跡の7本指のピアニストとして世界的に有名な西川悟平氏によるピアノ演奏とトークを楽しんだ。

この後、中島会長が永年にわたる支援、協力を感謝しながら次のように挨拶した。

「式典の冒頭では、西川悟平氏によるピアノ演奏が行われた。『ニュー・シネマ・パラダイス』は、私の好きな映画のひとつであり、この楽曲を生で聴けたことは、今日の日をより特別な日に変えた。また、このホテルは私が結婚披露宴を行った場所でもあり、さらに本日、西川氏がフィジーから帰国されたと伺ったが、私自身も新婚旅行はフィジーであり、3つの偶然が重なり、非常に感慨深い式典となった。

さて、エコール事務機チェーンの誕生は、昭和39年5月。東京オリンピックが開催され、日本が高度経済成長の真っ只中にあった時代である。文具業界においても、筆記具や帳票といった商品から、複写機やタイプライターなどの高額な事務機器へと、取り扱う商材が大きく変化する転換点であった。

当時、大手メーカーは個々の文具店を取引対象とせず、個店では対応が困難な状況にあった。そこで信頼ある共同仕入れ体制を築くため、山三商事の協力により、ボランタリーチェーンとしてエコール事務機チェーンが創設された。創立時には118名の会員をもって上野精養軒にて総会が行われ、同年11月には見本市も開催されたと聞いている。

その後、親睦旅行や販売促進キャンペーン、研修・視察・海外旅行なども通じて、単なる商取引にとどまらないネットワークが形成された。高度成長、オイルショック、バブルの崩壊、そして近年の震災やコロナ禍、水害など、幾多の困難を乗り越えながら、今日まで歩みを進めてきた。

今、事務機からOA、そしてITの時代へと転換が進み、従来の『事務』という言葉の意味すら変化してきている。こうした時代においても、ボランタリーチェーンとしての強みを活かし、今後も変化に対応できる組織であり続けたいと考えている」

続いて東京エコール・杉山一徳社長が卸の立場として次のように挨拶した。

「かつて問屋無用論が盛んに叫ばれていた時代に、我々の先達は『これから問屋はどう変身すべきか』を真剣に考えた。その中で、卸機能の強化とともに、小売店との経営指導の役割も担うべきとの構想が生まれた。そうした流れの中で、1964年（昭和39年）5月に、問屋と多くの小売店が大同団結し、それぞれが独立企業の形を保ちながら、大資本に対応する新しい流通機構としてエコール事務機チェーンが設立された。当時の先代、政木社長は『得意先とのチェーン化で総合営業を加速し、運命共同体として販売促進策を進める』。この〝運命〟という言葉には、単なる親睦会ではないという強い意志が込められていた。

令和の今、世界が分断に向かうなかで、改めて〝つながり〟の大切さが見直されている。60年の歴史の中で築いてきたこの絆は、まさに良き意味での日本型伝統チェーンであり、今後も互いに手を取り合いながら、強固なネットワークを築いていきたい」

この後、功労者表彰として歴代会長の渡邉輝也氏（加登屋会長）、内田勇二郎（丸正商店会長）、池田文雄氏（池田屋社長）、原島博（ハラジマ代表）に中島会長より感謝状が贈られ、池田氏が謝辞を述べた。

この後、祝宴を催し、エコール流通グループ賛助会幹事長のニチバン・高津敏明社長の乾杯の音頭で開宴、賑やかに歓談、創設60周年を祝った。

開会挨拶する中島会長

東京エコール・杉山社長

功労者表彰での記念撮影

夢叶えるために

エコール・ステイショナーズ・チェーン総会

仕組みや環境整える年に

出資組合エコール・ステイショナーズ・チェーン（篠原孝夫理事長）は、7月9日午後4時40分から東京都文京区の東京ドームホテルで第45回総会を開催、上程諸議案を原案通り承認可決、更なる発展を期した。

総会は、滝沢重雄常務理事の司会で進め、物故者へ黙祷を献げ、西巻進副理事長の開会の辞のあと、篠原理事長は、多数の出席と日頃の協力を感謝しながら、「総会資料に挨拶文を記載しているため、本日は少し異なる切り口で話したい。私が会長に就任したのは2年前であり、今年が任期最後の年である。その就任当時、大谷翔平選手がドジャースを選んだ背景を思い返し、自身の夢を実現できる場所として彼がドジャースを選んだことに感銘を受けた。契約金やサポート体制、気候といった条件の中でも、最終的に『夢の実現』を重視した。当チェーンも同様に、全ての加盟店が主役として輝き、いわば『チャンピオンリング＝利益』を手にすることができるような仕組みや環境を整えたい。それが私の夢であり、最終年を迎えるにあたり、その思いを皆様に伝えたい」と挨拶した。

出席状況として会員164人中、本人87人、委任状75人の合計162人の出席で総会が成立することを宣言、篠原理事長が議長に就いて審議に移った。

審議では、第1号議案として2024年度の事業報告とそれに伴う収支決算報告はじめ各事業別の報告が行われ、第2号議案として前年度を踏襲した事業と収支予算案を上程、全て原案通り承認可決した。

事業計画では、エリアマーケティング部会、共同仕入事業、販売促進事業、教育情報事業、加盟店交流事業、福利厚生事業など例年通り活発な内容となっている。

また、2030年度に設立50周年記念式典として2500万円の支出予定も記された。

この後、来賓挨拶としてエコール流通グループ賛助会幹事長のニチバン・高津敏明社長と、会社代表としてエコール流通グループ・政木藤二郎代表取締役が挨拶、熊谷昌和副理事長の閉会の辞で総会を閉じた。

この後、懇親会を開催、エコール流通グループ副幹事長のLIHIT LAB.・田中宏和社長の乾杯挨拶で開宴、賑やかに歓談して親睦を深め、エコール流通グループ・長谷川豊相談役の閉会の辞で閉じた。

なお、総会に先立ち午後3時から記念講演会を開催、株式会社コロンバン・小澤俊文社長を講師に招き「できないを変える　既成概念を壊す～老舗洋菓子メーカー再建を通じ～」をテーマに1時間30分にわたって講演した。

開会挨拶する篠原理事長

講演会も開催した総会

多様化と好奇心
テーマに
青雲クラウン　シーズンマーケット

【メイブン発】株式会社青雲クラウン（青山英生社長、名古屋市）は、は6月27日に名古屋駅前の愛知県産業労働センター（ウインクあいち）で、秋・冬商談会「クラウン・シーズンマーケット2025」を開催した。

当日は午前9時30分から毛利祐三常務の司会で全体朝礼を行い、青山社長が「先ずは私どものインスタBUNGU・SEIUNDOを紹介する。社内のことを私が誉めることは極めて少ないが、この活動とコンテンツは『よくやっている』と

アピールしたい。再生回数もかなり上がっており、是非ともご覧頂きたい」と挨拶。

続いて、毛利常務は「今回のテーマは『多様性と好奇心』としている。世の中、デジタル化は確実に進んでいるが、本日注力している感性に訴える商品もしっかりと市場を作っている。来場者は130社220名を予定している」と、商談会にかける意気込みを述べて開会した。

今回の出展は54社、そのうち新規は10社で、会場入り口すぐにその新規10社の集中展示もあり、他にもダイアリー、Xmas、年賀用品から秋・冬の新製品を随所でアピールした。

見本市担当委員長の店舗営業課・加藤課長は「情報発信にSNS、ネット活用は欠かせないが、同商談会の商材は、来場バイヤーの人にリアルに手に取って頂いて、質感や感覚を実感して欲しいものが多い。そしてその感覚をユーザーに伝えて頂きたい。我々もその観点を大切にしている」と意気込みを語っていた。

秋・冬の新製品をアピール

蛤料理を堪能
大紙工第300回歩こう会

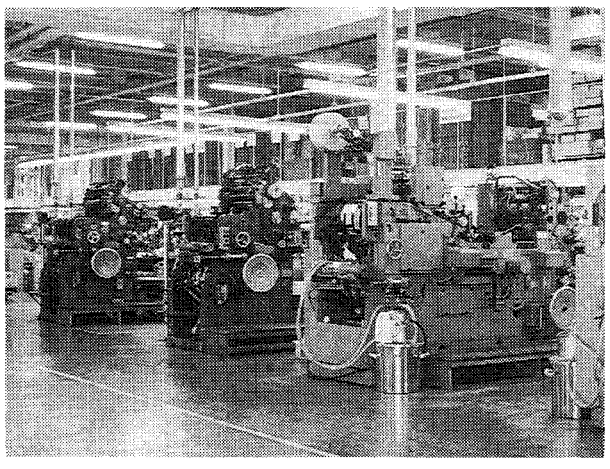
大阪紙製品工業会（黒田章裕会長）の第300回歩こう会は、6月27日に14人が参加して三重県桑名市の「日の出」で開催され、希少価値の高い蛤料理を堪能した。

当日は午前11時半に近鉄桑名駅に集合した後、蛤料理の「日の出」に向かい、正午より会食。

会食に先立って黒田会長が挨拶した後、初参加者を紹介して開宴、桑名産こだわりの蛤を焼、しゃぶしゃぶ、てんぷらなどの蛤懐石に舌鼓を打った。

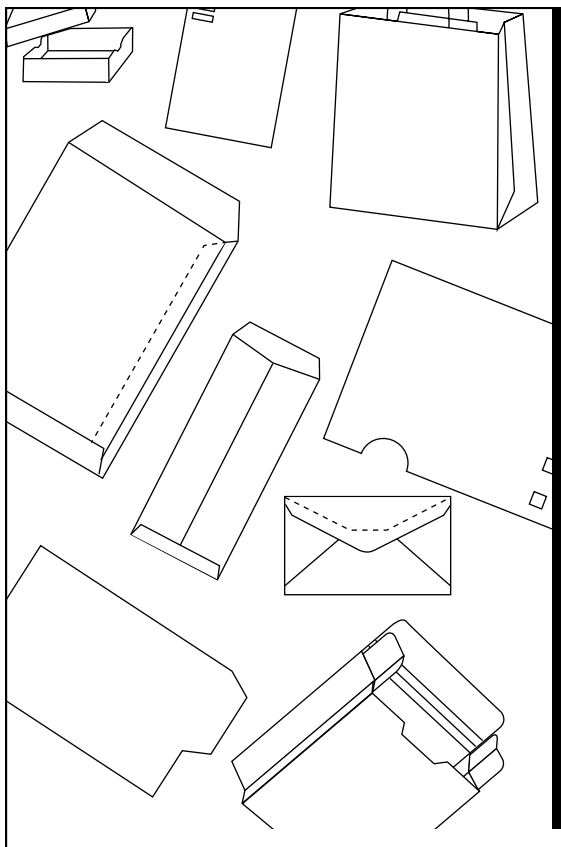
「日の出」での記念撮影

充実した生産設備で



カラー封筒
セロ窓封筒

コーキ封筒株式会社
〒584-0023 大阪府富田林市若松町東3丁目7番8号
TEL 0721-25-7210（代表）
FAX 0721-25-9484



株式会社 ヤマガタ
TRADE MARK
月印紙製品
http://le-yamagata.com

紙製品は、お客様の想いを届けるための大切なツールと考えております。
製品を通じて社会貢献につながる喜びに感謝しつつ
一つ一つ大切に作り、大切にお届けしてまいります。